

KAS

Cotton こっとな Up あっぷ

Vol. 91



今回は分場を利用されているTさんが取り組んだカバンの整理について
特集しています！

詳しくは2ページからの「W・D・S・N15」をご覧ください！

目次

- | | |
|---|----------|
| ・「W・D・S・N 15 (Watage Daily Support News)」 | 《2～4ページ》 |
| ・新任職員紹介 | 《4ページ》 |
| ・「お～い！ごと～くん！」 | 《5ページ》 |
| ・ものどらつくまるちどらつく | 《6ページ》 |
| ・法人決算報告 | 《7ページ》 |
| ・後援会のご案内 | 《8ページ》 |
| ・ボランティア募集 | 《8ページ》 |
| ・編集後記（編集部） | 《8ページ》 |

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会
代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲910-1コープ野村6-109
(毎月1回15日発行) 購読料1部 100円

「W・D・S・N 15(Watage Daily Support News) 」
～ カバンの中身を整理して快適な分場ライフを！ ～

Tさんのちょっとこまっていること

わたげ分場に通われているTさんはとてもユーモアのある人です。よくご自分が見ているらしいテレビの話をしてくれます。「大原麗子さん若手女優さんだよ」「夜のヒットパレード」など、何故かちょっと話題は古いのですが…。また、地図や旅の本も好きで「名古屋の～は美味しいんだよ」等とも教えてくれたりします。

彼は作業が終わる毎に出来高表に○をつけています。表の全てに○がつくと給料をもらい、そのお金で好きな本を買いに行きます。やっぱり好きな旅行の本が多いです。しかし問題がひとつありました。財布の入っている鞆がいつもパンパンだったのです。職員が給料を渡す際に、そのお金を入れる財布が中々出てきません。「ないー」「忘れちゃったよー」と叫んだりする事もありました。結局は床や机に鞆の中身を出し、お店を広げてやっと財布を見付け、「ありましたよ」と笑顔で職員に給料をもらいにくる場合が殆どでした。

職員は鞆がパンパンなのは勿論知っていましたし、詳しく覗いた事はなかったものの、財布を探す際にお店を広げるので何が入っているのかも概ね分かっていました。彼の鞆の中には本当に色々なものが入っていました。菓子パンの空き袋、タブレット状のガムの容器、ふりかけの空き容器、スーパーで購入したと思われる寿司などのプラスチック製の皿、殆ど書けなくなったマジックペンなど職員が見る限り、分場では必要なさそうなものばかりでした。

整理をしよう！

そこで、鞆の中身を整理しようとして提案しました。彼は字を読む事ができ、内容も理解できます。そこで前日に鞆の整理をする事を予告しました。実行する日は、いつも財布を探すのに困っている給料を貰う時と決めました。整理してから給料を渡す事で財布が取り出しやすく、整理する事のメリットを感じて貰いたいというのが一つの狙いでした。予告した文書は右の通りです。

必要なものを入れる箱、要らないものを入れる箱とゴミ箱にそれぞれ紙を貼り付け、用意しておきました。

当日、スケジュールにいつ、誰と行うのかを明記し、確認しました。時間になるとご本人自ら「整理しますよ」と職員に言ってきてくれました。

鞆の中ものは他人からどう見えようかとご本人の私物です。どれが必要でどれが不必要なものか、ご本人に聞かなければわかりません。ただ、今回整理するにあたり、明らかにゴミと思われるものは職員が「これはゴミです。捨てましょう」とはっきり伝える事にしました。

Tさんへ お知らせ

明日4月14日、ツタヤに行って本を買います。

その前に、カバンの中身を鈴木さんと一緒に確認しましょう。ゴミやふあずに必要のないものがはいついて、財布が出しにくいと思います。

鈴木さんといっしょにカバンの中身を確認して、ゴミはゴミ箱に捨てます。ゴミは鈴木さんがゴミ捨て場にだします。

2010年度はカバンをきれいに整理して、必要なものをすぐ出せる、すてきなカバンになるよう、鈴木さんといっしょにやっていきましょう。カバンの中身が整理されている事はとてもすてきでカッコいい事です。鈴木さんも協力します。よろしくおねがいします。

し、空き袋や空き容器も大量に出てきました。職員も少し驚いたというのが正直な所ですが、一つ一つ必要な物か、ゴミかを丁寧に分けていきました。判断が難しい物は「これはどう？」とご本人に聞きながら行いました。殆ど「捨てますよ」と答え、大部分をゴミとして処分する事になり、7～8キロあった鞆は0.8キロまで軽くなりました。全くいやがる様子はなく、終始スムーズに分別作業は終了しました。事前に予告したことも重要でしたし、ご本人もその機会を待ち望んでいたのかもしれませんが。自閉症の方がよく言われてしまう決め事とかこだわりとかではありません。それはこちらの思い込みで、単にきっかけがつかめなかつただけではないでしょうか。



整理したカバンの維持

鞆がある日突然一杯になったわけではありません。彼はちょっとしたものでも鞆に入れる事が習慣のようになっていきました。その行為自体を止めたりとがめたりする必要はないと考えます。ただ、また財布を出す時に焦ったり困る事にならないよう、一定量が貯まったら整理する事にしました。とはいっても毎日職員が鞆の中身をチェックする訳ではありません。ご本人が入れておきたい物も当然あるでしょうし、誰しも鞆を他人に覗かれるのは気分のいい事ではありません。プライバシーの問題であり、職員はその点を十分配慮しなければなりません。そこで、私たちは毎朝鞆の重さを量ってもらう事にしたのです。鞆の重さチェック表を作成し、ご自分でチェックしてもらう事になりました。キロ数の横にチェック欄があり、2.5キロを超えると再度職員と整理する事を前回と同様文書にて事前にお伝えしました。

Tさんへ お知らせ

5月6日木曜日からカバンの重さチェックを始めます。通所したら重さを量る場所に来て、カバンを体重計に乗せて下さい。

体重計にカバンを乗せたら、重さの所にペンで丸をつけてください。

カバンの重さが「合格」の数字であればOKです。もし、重さが「残念」であれば、午後、職員とカバンの中身を整理します。

鈴井さんも庄司さんも梶原さんも、Tさんが自分でカバンの整理をしてほしいと思っています。重さを量ってみて、「残念」に近づいてきたら、自分の部屋で要らない物をゴミ箱に捨てて来て下さい。

難しかったら職員が手伝いますので心配しなくて大丈夫です。

それから

ご本人の分場での一日は毎朝靴を体重計に乗せ、重さをチェックして表に○をつける事から始まります。職員もご本人が○をつけたチェック表を確認し、基準値内にあれば「すばらしい！」と声をかけています。

現在、整理してから3ヶ月経過しました。靴の重さは徐々に増え、一時は2.2キロまでに増えました。職員も「いよいよ？」と思った翌日には1.6kgまで下がったりする事を繰り返しています。ご本人は何も言ってくれませんが、しっかり重さを意識してくれているのかもしれない。まだ2回目の靴の整理は行っていません。

靴の中身が整理された事で、給料をもらう際にはすぐ財布を取り出せるようになり、困ってしまう事はなくなって、気持ちよく本屋さんに出発できています。

ちょっとした物でも靴にしまうのは彼の習慣です。中身が増えてくるのは良しとしましょう。基準値内で維持できている事を評価し、ご本人の努力を認める対応を続け、一定量に達した際にまた整理をすれば良いのではないのでしょうか。ご自身が靴の中身を自ら整理する、維持する意識を持てているかどうか判断する為、現在職員としては1年間という期間を設定し、評価を続けています。今後もしばらく長い目で見ていきたいと思っています。



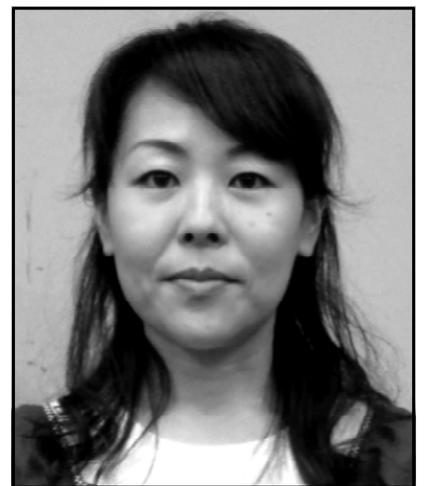
鈴木 研二

★ 新任職員紹介 ★

5月から「わたげ」で非常勤職員として働かせて頂いております、柳下 美佳（やぎした みか）と申します。小学校2年生の娘がおります。子供が生まれてからはずっと専業主婦をしており、約8年ぶりのお仕事になります。OL時代は、給料のほとんどを海外旅行に費やし遊びまわっておりました。特にハワイが大好きです。老後はハワイで暮らしたら…?などと憧れています。

今回、初めての福祉のお仕事を経験し、まだ2ヶ月程ですが、「とても奥が深く、やりがいの有るお仕事だなあ〜」…と言うのが正直な感想です。

これから色々な事を先輩職員に教わりながら、少しでも利用者の方々へお手伝い出来るように、一生懸命頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



『お～い、ごとーくーん！！』

最近、私が興味を持って追いかけていた話題は、「はやぶさ」についてです。「はやぶさ」は、サンプルリターンという往復型の惑星探査を目的に開発された、惑星探査機の名称です。小惑星イトカワからのサンプルを採取し、地球に持ち帰ることに挑戦していたのです。小惑星には太陽系の起源を知る手がかりが残されており、そのサンプルを分析することで、太陽系の謎を解くための重要な手がかりが得られると期待され、2003年5月に種子島から打ち上げられました。その「はやぶさ」が7年間という宇宙の旅を終えて、2010年6月13日地球に戻って来ました。地球から約3億kmも先の、わずか直径540mの小惑星に無人で着陸し、サンプルを持ち帰った可能性があるというから、ワクワクします。

エンジンの燃料はどうしてそんなに長く持つのか、地球と離れて行くほど電波が届くのに時間がかかり、指示のタイミングに遅れが出るのではないかと、素人ながら不思議に思うことがたくさんあります。そこには、最新の技術が用いられ、イオン化した燃料を高速噴射することで、推進力を生み出す省エネのイオンエンジンが搭載されていたり、地球の重力を利用して探査機を加速させる「地球スイングバイ」という方法が用いられたり、距離も位置も探査機自らが判断して調整する、「自律誘導航法」など、いくつもの新しい試みを取り入れられていたそうです。当然のことながら、途中幾多の困難もありました。イトカワに着陸した後、燃料ガスが漏れて姿勢が制御できず7週間も行方がつかめなくなったり、地球を目前にしてエンジンの寿命が尽きてしまったり。この絶体絶命のピンチに、「はやぶさ」を管制している運用チームのメンバーが、諦めなかったことが、地球へ戻ることに繋がったそうです。

挑戦し、諦めない姿勢に、進歩はあるのだとつくづく考えさせられました。私は、熱心な天文ファンではありませんが、これから半年くらいかけて、カプセルの中身を調査する中で、イトカワからの物質が見つかり、それが、地球誕生の起源を知る手がかりになれば、素晴らしいのですが。期待に胸がふくらみます。

巷では参議院選挙が終了し、選挙結果から考えると、政治の場はより一層混沌とした状態になりそうです。障害者自立支援法に変わる新たな制度は、どうやって行くのか心配は募るばかりです。まだ、旧法施設のままでの当施設ではありますが、「はやぶさ」の地球帰還に学び、挑戦し、諦めない姿勢で、日々少しずつ前進していきたいと思えます。

わたげ 施設長 後藤博行

たんぽぽ・ヨコスカ

ものどらっくまるちどらっく

No.43

このコーナーでは毎月「横須賀たんぽぽの郷」最新ニュースをトピックスでお伝えして行きます。

篁一誠先生 わたげ来所

4月16日（金）、6月18日（金）に、篁先生（PDDサポーターセンターグリーンフォレスト）が来所されました。日中のわたげの様子を見ていただき、ケース会議にて講義と、職員からの質問に対するアドバイスをいただきました。

今回の講義は「生理的な特徴」というテーマでした。自閉症の方の中には、天気予報を気にする人が多くいますが、それは彼らなりの情報収集ではないかと先生は話します。ある自閉症の方は、台風が発生した時に不安定になっていたのが、今は落ち着いて過ごせるようになったそうです。それは、自分が不安定さを感じるのは台風が発生した時だということを理解し、インターネットで常に天気図を確認しているからということでした。

そのような理解が難しい方もいますし、不安定になる理由が分かっても気象条件を変えてあげることは出来ません。しかしなぜつらさを感じているのかを理解しその気持ちに寄り添ってあげることは出来るのです。そして、彼らの行動にある様々な背景は、日々の記録を取り続け振り返ることで見えてくるものだというお話を聞き、記録の大切さを改めて感じました。

広瀬宏之先生 わたげ来所

7月2日（金）に、広瀬先生（横須賀市療育相談センター）が来所され、ケース会議を行いました。今回は、職員からの個々の利用者の質問に対しアドバイスをいただきました。

自閉症の方のさまざまな行動（自傷行動や大きな声を出す、腕や足を激しく振る等）には、自分を落ち着かせようとしていたり、その人なりの意味を持っている。薬物治療によりその行動だけを抑えようとしても解決にはならない。その行動がその人にとってなぜ必要なのかを考え、その行動を取らずに済む環境や対応を提供すること、または代替えになる行動（何かを叩く行動を落ち着く手段としているのなら、頭を叩く代わりにまくらを叩いてもらう等）を提案することの大切さと効果を先生のアドバイスから学びました。

こっとなはうす送迎車が新しくなりました

神奈川県共同募金会より助成を受け、送迎車を購入しました。

ありがとうございました。



オンブズマン来所

6月23日（水）、オンブズマン2名が来所し、わたげの利用者や支援の様子を見ていただきました。